

検討会の趣旨について

【背景】

近年、温室効果ガス排出抑制の取組から、従来（35MPa）より高圧の水素ボンベ（70MPa）が搭載された燃料電池自動車の普及に向けた取組が進められており、今後、燃料電池自動車のインフラ整備の一つとして、高圧の水素充てん設備を設置する給油取扱所が増加すると予想される。従来の水素充てん設備を設置する給油取扱所に講ずべき安全対策に係る技術基準の整備は既に行われているところであるが、水素充てん設備の充てん圧力が従来より高圧になることにより、水素充てん設備等で事故が発生した場合に給油取扱所や周辺施設に与える影響が増大するおそれがあることから、水素充てん圧力が高圧になることに伴って発生する危険性を分析・評価し、給油取扱所に高圧の水素充てん設備を設置する場合に必要な安全対策を確保するための技術基準の策定等が急務である。

【目的】

このような状況を踏まえ、本検討会において次の事項について検討を行う。

- （１）給油取扱所に従来より高圧の水素充てん設備が設置される場合の危険要因の抽出・分析を行う。
- （２）給油取扱所に従来より高圧の水素充てん設備が設置される場合の安全対策のあり方について検討を行う。
- （３）その他、圧縮水素充てん設備設置給油取扱所の技術基準に係る必要な事項について検討を行う。

<留意事項>

圧縮水素充てん設備設置給油取扱所のレイアウトについては、水素充てん設備を給油空地外に設ける、固定給油設備等から漏れた危険物が水素ディスペンサーに達しないよう溝を設ける等の現行基準に適合することを前提に検討を進める必要がある。